

1 単元 動物にへんしん！ ー体づくり運動：多様な動きをつくる運動遊びー

2 単元について

(1) 単元設定の理由

- 小学部低ブロックは、8名で構成されている。動きのぎこちなさのある児童もいるが、体を動かすことが好きな児童、体の動きを模倣できる児童が多く、興味・関心のあることや見通しが持てる活動であれば、自分から進んで取り組むことができる。
- 歩く・走るなどの基本的な運動は、ほぼできるが、姿勢制御運動であるバランスという動きに関しては、10cm幅の低い平均台を歩くというような動的バランスや2～3秒片足で立つというような静的バランスを見ると、習得度の高い児童から低い児童まで、実態は様々である。体を動かすことが好きでも動きのぎこちなさのある児童は、階段をゆっくりと一歩ずつ足をそろえて上り下りする、支えてもらわないと高い所にのることができない、という様子が見られる。また、バランスよく動ける児童でも、無造作に高いところに登る、必要以上の動きをするなど、危険を予想できずに動いている様子が見られる。児童が多様な動きを獲得し、自分の動きにイメージを持てるようになることは、体を動かしていることに実感を持ち、「こんな動きもできた」という自信につながるのではないかと考える。
- このような実態の児童に対して、学習指導要領特別支援学校小学部体育で取り扱う指導内容として、体づくり運動を取り上げた。その中で、第1段階（2）の「いろいろな器械・器具・用具を使った遊び」の平均台やマットを使った運動遊びに取り組むことにした。体づくり運動については、学習指導要領小学校第1学年及び第2学年の内容でも取り上げられており、「多様な動きをつくる運動遊び」での活動を取り入れながら学習に取り組むことにした。
- 本題材では、「動物にへんしん！」という運動遊びの中で、バランスだけでなく様々な動きに取り組めるように活動の場を設定した。児童のバランスに関する実態に合わせて2つのグループに分け、グループごとに活動の流れと速さを作るようにした。また、児童が自分で様々な動きを考えられるように、教師がいろいろな動きを示範したり、友達の動きに注目させたりした。このような活動をとおして、児童が自分からやってみたくなるような楽しい活動を十分に取り組むことによって、身体活動に喜びを感じたり、自信を得たりすることができるようになるのではないかと考え、本題材を設定した。

(2) 児童の実態

氏名等	平均台	はしご・飛び石	マット	学習態度・行動特徴など
A	細幅の平均台をスムーズに渡ることができる。	片手補助で足を揃えて渡ることができる。	前転ができる。	体を動かすことが好きで、興味・関心のある運動には自分から活動することができる。
B	補助で広幅平均台をゆっくり渡ることができる。	はしごを補助でゆっくりまたいで歩くことができる。	両足ジャンプして前へ進むことができる。	教師と一緒に活動することで安心し、活動に気持ちを向けることができる。動きにぎこちなさがあるが体を動かすことが好きである。
C	細幅の平均台をスムーズに渡ることができる。	手すりを使って足を交互に渡ることができる。	前転ができる。	見通しがもてれば自分から学習に向かうことができる。対面して示範すると、体の動きを模倣することができる。
D	細幅の平均台を自分のペースでゆっくり渡ることができる。	足を交互にスムーズに渡ることができる。	腹這いで前に進むことができる。	横に並んで示範するのを見て、模倣することができる。教師の励ましや賞賛の言葉で安心して活動を続けることができる。
E	細幅の平均台をスムーズに渡ることができる。	足を交互にスムーズに渡ることができる。	腹這いで前に進むことができる。	体を動かす活動では、対面した状態で示範を見ることで、模倣をしようとするすることができる。
F	細幅の平均台を自分のペースでゆっくり渡ることができる。	足を交互に自分のペースでゆっくりと渡ることができる。	横転がりができる。	教師の励ましや賞賛の言葉かけで、安心して活動に気持ちを向けることができる。友達をよく意識して活動することができる。

G	細幅の平均台をスムーズに渡ることができる。	足を交互にスムーズに渡ることができる。	横転がりができる。	活動内容を文字や絵で確認したり、示範したりすることで、学習に気持ちを向けて活動することができる。
H	広幅の平均台をゆっくり渡ることができる。	1歩1歩足をそろえてゆっくり渡ることができる。	前転ができる。	教師の励ましや賞賛の言葉かけで、自分の力で頑張ることができる、自信をもって活動に取り組むことができる。

(3) 個別目標

氏名等	個別目標	学習指導要領
A	<ul style="list-style-type: none"> ・足下をよく見てはしごを自分で渡ることができる。(技能) ・活動に気持ちを向けて、繰り返し運動することができる。(態度) ・はしごを渡るとき体の動かし方が分かる。(思考・判断) 	(特) 1段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア) (イ)
B	<ul style="list-style-type: none"> ・足下をよく見て広幅の線の上を歩くことができる。(技能) ・自分で足下をよく見て、運動に取り組むことができる。(態度) ・線の上を歩くことが分かる。(思考・判断) 	(特) 1段階 (1)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・平均台の上で、示範を見て、片足でバランスをとることができる。(技能) ・教師の動きをよく見て運動に取り組むことができる。(態度) ・片足でバランスをとる体の動かし方が分かる。(思考・判断) 	(特) 2段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア)
D	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの動きの中から動きを選択して平均台を渡ることができる。(技能) ・教師の動きをよく見て運動に取り組むことができる。(態度) ・片足バランスや横歩きなどの多様な動きの体の動かし方が分かる。(思考・判断) 	(特) 2段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア)
E	<ul style="list-style-type: none"> ・マットの手形に手を合わせて体を伸ばした姿勢になり、横転がりをする。(技能) ・教師の促しを受けて、運動に取り組むことができる。(態度) ・横転がりをするときの姿勢や体の動かし方が分かる。(思考・判断) 	(特) 1段階 (2) (小1・2) 体育A (イ)
F	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がイメージした動物の動きで平均台を渡ることができる。(片足バランス、低く跳ぶ、横歩き)(技能) ・教師の励ましを受けて、自分がイメージした動物の動きを進んで行うことができる。(態度) ・自分が選んだ動物の動きをイメージして表現するときの体の動かし方が分かる。(思考・判断) 	(特) 2段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア)
G	<ul style="list-style-type: none"> ・自分がイメージした動物の動きをしながら、平均台を渡ることができる。(技能) ・教師とやり取りしながら、繰り返し運動をすることができる。(態度) ・自分が選んだ動物の動きをイメージして、体を使って表現すること方が分かる。(思考・判断) 	(特) 2段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア) (イ)
H	<ul style="list-style-type: none"> ・平均台の上で、自分がイメージした動物のポーズをとることができる。(技能) ・活動に気持ちを向けて、繰り返し運動することができる。(態度) ・自分が選んだ動物の動きをイメージして、体を使って表現することが分かる。(思考・判断) 	(特) 2段階 (2) (小1・2) 体育Aイ (ア) (イ)

3 指導計画（12時間取扱い：1単位40分）

第1次 いろいろな動きをやってみよう

- 準備運動・・・歩く、跳ぶ、はねる、バランス
- 平均台・・・渡り歩く
- 飛び石・・・渡って歩く
- マット・・・跳ぶ、はねる、転がる、回る
- はしご・・・またいで歩く、渡って歩く

第2次 動物にへんしん

- 準備運動・・・跳ぶ、はねる、バランス、回る、跳びながら向きを変える、児童から出た動き
- 平均台・・・渡り歩く、片足バランス、後ろ歩き、児童から出た動き
- 飛び石・・・渡って歩く、児童から出た動き
- マット・・・跳ぶ、はねる、転がる（横転がり、前転）、回る、児童から出た動き
- はしご・・・またいで歩く、渡って歩く、児童から出た動き

改善テーマ	活動の始めと終わりなど運動の行い方が分かるための場の工夫
課題点 (Check)	改善点 (Action)
2つの学習の場と移動時の学習の場を設定することが、児童が活動しやすい環境をつくれたが、運動の行い方を理解し、繰り返し活動に取り組むことができるよう、始めと終わりを明確にする必要がある。	終わりには音の出るマットを、始めに戻るためにパーテーションに矢印を付けることで、自分から始めに戻るができるようにした。さらに、場ごとの活動を明確に提示することで、自分で活動を選び、多様な運動に取り組めるようにした。

4 本時の指導

(1) 目標

- 足型に合わせてはしごを渡って歩くことができる。(技能) (A)
- 足下を見て線の上を歩くことができる。(技能) (B)
- 平均台で片足バランスをとることができる。(技能) (C)
- 四つ這い・横歩き・片足バランスの中から動きを選んで平均台を渡ることができる。(技能) (D)
- 体を伸ばした姿勢でマットで横転がりをすることができる。(技能) (E)
- イメージした動物の手や足の動きをつけて、平均台を渡ることができる。(技能) (F)
- イメージした動物の動きをつけながら平均台を渡ることができる。(技能) (G)
- 平均台の上でイメージした動物のポーズをとることができる。(技能) (H)
- 教師の言葉かけや活動の流れにのって、自分から活動することができる。(態度)
- 教師とやり取りすることで、バランスを取ったり移動したりする体の動かし方が分かる。(思考・判断)

(3) 展開

時間	学習内容・活動
<p>3</p> <p>4</p> <p>27</p>	<p>1 本時の学習内容を知る。</p> <p>(1) 整列 (グループごと)・あいさつをする。</p> <p>(2) 本時の学習内容を知る。</p> <p>2 準備体操をする。</p> <p>屈伸・伸脚・アキレス腱を伸ばす, ジャンプ, 片足回転, 片足バランス</p> <p>3 どうぶつにへんしん (多様な動きをつくる運動遊び) する。</p> <p>(1) グループごとの活動</p> <p>(2) 発表</p>
	<div data-bbox="236 542 1391 1361" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>【マットコーナー】</p> <p>・横転がり ・動物になり 自由に動く</p> <p>高いところ から飛ぶ</p> <p>前転</p> <p>傾斜ありマット</p> <p>高さありマット</p> <p>台前転用 マット</p> <p>音の出るマット</p> <p>【とび石コーナー】</p> <p>飛び石から落ちないように歩く</p> <p>【平均台コーナー】</p> <p>落ちないようにバランスをとって歩く</p> <p>音の出るマット</p> <p>【はしごコーナー】</p> <p>またいで歩く・渡る</p> </div> <p>赤チーム (T 2)</p> <p>白チーム (T 3, T 4)</p> <p>3 4 整理体操をする。</p> <p>3 5 本時のまとめをする。</p> <p>(1) 学習を振り返る。</p> <p>(2) 終わりのあいさつをする。</p>

指導・支援上の留意点

- ・学習の始まりが意識できるように整列の合図をし、きちんとした姿勢であいさつをする（態度）。
 - ・グループで活動することが分かるように、始めからグループごとに整列するようにする。
 - ・活動に見通しが持てるように、本時の活動内容を提示しておく（知識）。
 - ・屈伸や伸脚、アキレス腱を伸ばす動きが模倣できるように、T1が分かりやすい言葉の指示と動きの示範をする。
- ⇒屈伸や伸脚、アキレス腱を伸ばす動きができたか（技能）。
- ・児童が多様な動きをしようとする気持ちを持てるように、バランスの動き（片足回転・片足バランス）を取り入れる（技能）。
 - ・児童が好きな動物を選べるように、選択肢を用意し、体操服に児童が選んだ動物のシールをはることで、自分から活動に取り組もうという気持ちを持てるようにする。

グループ（T2）

グループ（T3, 4）

- | | |
|--|---|
| A 対面して良い姿勢を示範することで、きちんとした姿勢であいさつすることができるようにする。 | B 好きな動物の動きをまねているときには、賞賛し、楽しんで運動できるようにする。 |
| C T1の方向を指さしすることで、T1の動きに注目して、動きの模倣ができるようにする。 | D T1の動きを自分で模倣しているときには賞賛し、運動が続けられるようにする。 |
| G 約束カードで学習の約束をしておくことで、T1の動きに注目して、自分で屈伸や回るなどの動きを模倣することができるようにする。 | E 対面して示範することで、動きを模倣することができるようにする。 |
| H 好きな動物の動きをまねているときにはT1に伝えることで、みんなに紹介し、自分から活動に取り組もうという気持ちを持てるようにする。 | F 好きな動物を選択することで、自分から活動に取り組もうという気持ちを持つことができるようにする。 |
| A はしごのところで立ち止まっているときには、教師が補助することで、渡れるようにする。 | B バランスをとる動きの場面では、教師が補助することで、安全に運動ができるようにする。 |
| C 対面して片足バランスの示範をすることで、教師の動きをよく見て模倣することができるようにする。 | D 新しい動きをするときには、教師と一緒にいたり、側で示範したりすることで安心して自分から新しい動きを行おうとすることができるようにする。 |
| G 変身した動物の動きになっているときには、簡潔に賞賛し、次の動きにスムーズに移れるようにする。 | E マットの上でなかなか転がれないときには、手を持つなどの補助をして転がりやすい体勢にしたり、軽く押して転がるきっかけをつくったりすることで、横転がりができるようにする。 |
| H 自分でやろうとする気持ちや補助を必要とする気持ちを受け止めることで、自分から楽しく運動することができるようにする。 | F 「がんばれ」などの励ましの言葉かけをしたり、賞賛の言葉かけをしたりすることで、自分で片足バランスの運動を行おうとすることができるようにする。 |

- ・児童が、次の学習でも多様な動きをしようという気持ちを持てるように、友達の発表の中で、動きを紹介する。（知識）
 - ・発表していない児童も、次の学習でも頑張ろうという気持ちを持てるように、一人一人の児童が頑張ったことを紹介し、賞賛する。（態度）
- ⇒多様な動きを知ることができたか。（知識）
- ・整理運動の動きが模倣できるように、T1が分かりやすい言葉の指示と動きの示範をする。
 - ・学習の終わりが意識できるように整列の合図をし、きちんとした姿勢であいさつをする。（態度）